

第6学年 学級活動（1）指導案

場 所	6年1組教室
児 童	6年1組 34名
指導者	工藤 信寛

1 議題 「思いやりの心でつながろう ～1年生とにこにこ集会～」

2 活動のねらい

本活動は、小学校学習指導要領特別活動（学級活動）の共通事項（1）「学級や学校の生活づくり」のウ「学校における多様な集団の生活の向上」に基づいている。

6年生となった児童にとって、自分たちの学級だけでなく学校の生活全体にも目を向けていくことは、高学年の一員としての自分の役割を自覚し、誰に対しても思いやりの心をもって活動しようとするにつながるものとする。1年生の立場に立って考え、話し合うことで相手の立場に立って親切にし、主体的に責任を果たそうとするものとする。特に、気付き、考えることに留まらず、1年生との集会を開くという実践をすることで、自発的・自治的に楽しく豊かな学級や学校の生活をつくらうとする態度の育成をめざしていきたい。

3 活動の構想

(1) 児童について

児童は、1年生が入学して以来、登校班や給食の後片付けなどのお世話活動を行ってきた。当初、いつ、何を、どうするかが分からず戸惑う児童もいたが、徐々に声をかけたり手をかけたりできるようになってきている。最高学年としてのあるべき姿を意識しながら、生活する様子が見られるようになってきた。

学級活動においては、児童会の月目標を達成するための実践方法を話し合いで決めることや、そのために自分がしなければいけないことを考えて活動しようとする様子が見られる。しかし、与えられた目標に対して皆で取り組むことのよさを感じながら話し合う姿が見られる一方、関わりに消極的だったり進んで話し合いに参加できなかったりする様子も多く見られる。

そこで、話し合いを通して、自分たちの学級や学校の生活を向上させるためには、集団としての意見をまとめ、共に実践していく中で、自主的に活動していくことが必要であるとする。

(2) 活動について

最高学年になったという意識をもち、朝のお世話や、給食の後片付けの手伝いなどを実践することを通して、親切にしようとする態度を育むことから1年生との関わりが始まった。しかし、6月を迎え、1年生自身でできることが増え、お世話の必要が無くなりつつあり、1年生と関わる活動が減ってきていることに気が付き、課題意識をもつようになった。その中で「もっと1年生と関わりたい。」「楽しく遊べるような交流会をしたい。」というような思いや願いが児童から出された。これまでの関わりといえば、掃除や給食の後片付けなどの決まった時間の中での交流が主であった。休み時間には、委員会や諸活動の準備・練習などのため、全員で関わることはできていない。そのような状況の中から、「1年生ともっと触れ合いたい」という願いを受けて、1年生との交流会を計画することに至った。

本議題は、1年生が楽しく活動できる内容を友達と考えたり、準備に取り組んだり、実践したりする中で、最高学年としての意識を高めることができる。また、今回の経験が、みんなで学校全体のことを思い続け、楽しく豊かな学校生活をつくっていかうとする自治的能力や自主的・実践的な態度を高めることができる活動であるとする。

(3) 指導にあたって

本時は、友達との関わりを深めるために話し合い、最高学年としての責任や1年生と交流することに対してのよりよい解決方法などについて考え発言することができることをねらいとして、各段階で以下の手立てを講じ、児童が共通の目標に向かって話し合いをすることを通して自主的、実践的な態度の育成を図る授業を展開する。

事前の活動では、問題に気付き自ら進んで考えるために、選定された議題と提案理由を前もって学級会コーナーに提示し、本時の冒頭では、ポイントとなるキーワードを示しながら確認することで、提案者の願いや思いを踏まえて、議題について児童が主体的に関わることを目指す。

「出し合う」段階では、児童一人一人が話し合うことに対する様々な考えを発表する。意見を短冊に書き板書に位置付けることで、よりよい考えを見付けるきっかけとする。

「くらべ合う」段階では、短冊に書かれた意見を分類整理して考えを比べやすくする。似ている意見をまとめたり、分類整理したりして、話し合いの流れに即して操作することで、それぞれの考えの良さや違いを比べやすくすることを目指す。

「まとめる」段階では、目標の達成に向かうために、振り返りの観点（「本時の前からの自分の考えの変容」「友達の発言や考えから学んだ点」「事後の活動を通して自分や学級がなりたいたい姿（「未来」）を与え、3段階で自己評価するとともに、話し合いで認め合ったり、改善点を明らかにしたり、実践に向けての期待感を言葉で書いたりすることで、自分や友達の良さに気付き、自分が成長したことに自信がもてるようになることを目指す。

事後の活動では、実践後に価値を認め合ったり成果を実感したりできるようにするために、振り返りを行い、活動全体の目標の達成に近付くことを目指す。

4 活動の指導計画

(1) 活動の目標

- ・ 友達との関わりを大切に、1年生を含めて楽しんで交流しようとする。
【集団活動や生活への関心・意欲・態度】
- ・ 友達との関わりを深めるために、よりよい解決方法などについて考え、判断するなど話し合ったことをもとに、楽しく実践している。
【集団の一員としての思考・判断・実践】
- ・ 決めたことを実践する意義を知り、提案理由を根拠に話し合い活動を進めることを理解する。
【集団活動や生活についての知識・理解】

(2) 評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

(3) 教師の指導計画

場面	月日	参加児童	主な活動内容	目指す児童の姿と評価方法
事前の活動 (計画)	6月13日	全員	議題ボックスに出された願いの中から、「1年生と交流がしたい。」という議題を選定する。	【関心・意欲・態度】 友達との関わりを大切にし、問題点に気づき、関心をもって計画委員の活動や話合いの準備に取り組もうとしている。 (提案カード・観察) 【思考・判断・実践】 友達との関わりを深めるために議題について自分の考えをもち、計画委員の運営や話合いについて考え、準備している。 (学級会ノート) 【知識・理解】 話合いの準備における目的や内容を理解している。 (学級会ノート)
	6月16日	全員 計画委員	議題を選定し決定した後、活動計画表を作成し、学級会コーナーに議題、提案理由を示す。 〈「事象」とのつながり〉 議題選定にシンキングツールを使い、緊急性・実践の可能性を確かめる。 1年生に対するアンケートの準備、1年生の先生へのインタビュー等の資料収集をする。	
	6月20日	全員	学級会コーナーの内容を計画委員がみんなに知らせ、話合いの柱について、自分の考えをまとめる。 〈「事象」とのつながり〉 議題を提示しておくことで、提案理由を意識して自分の考えをもつ。	
	6月21日	計画委員	収集した資料についてまとめる。 話合いの準備と練習をする。	
	朝の活動 6月22日	全員	役割分担をする。	
	業間・昼休み 6月23日	計画委員	収集資料についてまとめる。 話合いの準備と練習をする。	
	本時の活動 (話合い)	6月24日 学級活動 (本時)	全員	
朝活動 6月27日		全員	役割分担をする。	【関心・意欲・態度】 決定したことを進めるために自主的・自発的に準備している。 (観察)
業間・昼休み 6月30日		全員	集会の準備をする。	
学級活動 7月1日		全員 1年生	「にこにこ集会」をする。	【思考・判断・実践】 友達との関わりを深めるために判断し、信頼し支え合って実践している。 (観察)
事後の活動 (実践・振り返り)	帰りの会 朝の活動		活動の様子を動画で見て、具体的なよさを見つける。振り返りを学級会ノートに記入する。 〈「未来」とのつながり〉 活動の様子を掲示し、実践を価値付け、よかったことなどを実感できるようにする。	【思考・判断・実践】 集会の意義を考え、実践したことの振り返りを書いている。 (学級会ノート)

4 本時の指導計画

(1) 本時の目標

友達との関わりを深めるために話し合い、最高学年としての責任や1年生と交流することに対しての、よりよい解決方法などについて考え発言することができる。【思考・判断・実践】

(2) 本時の手立て

- ・ 全員が同じ思いをもって話し合いに参加できるように、掲示してあった提案理由にポイントとなるキーワードを示しながら確認する。 <自己と「事象」とのつながり>
- ・ 話し合う視点を分かりやすくするために、意見を短冊に書き、比較したり分類したり関連付けたりすることで考えを比べやすくする。 <自己と「友達」とのつながり>
- ・ 自分や友達のよさに気づき、自分が成長したことに自信がもてるように、観点を与えて振り返りをする。 <自己と「未来」とのつながり>

(3) 教師の指導計画

段階	児童の活動	指導上の留意点・支援 (◇評価)	備考
導入 5分	1 始めの言葉 ・ 司会の合図で話し合いを開会する。	・ これまでの学級会を想起するように様子を教室に残しておき、話し合いの見通しをもてるようにする。	・ これまでの学級会の内容を掲示
	2 役割の紹介 ・ 係を紹介する。		
	3 議題の確認 ・ 議題を確認する。		
	1年生とにここ集会を開こう		
	4 提案理由の説明	※ 事前に、学級会ノートに自分の考えを記入している。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><「事象」とのつながり> 事前に提示していた提案理由の中からポイントとなるキーワードを示す。 ↓ 提案者の思いを再確認して、改めて自分の考えをもつことができるようにする。</p> </div>			
5 決まっていることの確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日時 7月1日 (金) 3校時 場所 大ホール 次第 司会 (6年生) 1 はじめの言葉 (6年生) 2 <u>遊び・ゲーム</u> 3 感想発表 (6年生・1年生) 4 終わりの言葉 (6年生) ※ 6年生と1年生がたくさん触れ合える内容とする。 ・ 時間内で楽しめる。(時間は30分)・1年生が楽しめる。 ・ 名前を覚える ・6年生がお手本を示せる。</p> </div>		

展 開 35 分	6 話し合い ・ 柱1 「1年生が楽しめる, 内容は何か。」		ビデオ等
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>〈「友達」とのつながり〉 意見を短冊に書き, 分類したり整理したりするように促す。 ↓ 一人一人の考えや願いを可視化し認め合い交流することで, 自分にとっても友達にとってもよりよい考えを見付けようとする。</p> </div>		座席表
	・ 柱2 「どんなルールにするか。」 7 決まったことの確認 ・ ノート記録係が決まったことを発表し, 確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板記録係の児童に黒板の書き方を事前に指導しておく。 ・ 単にアンケートから決めるのではなく, 1年生の意見を加えつつ, 出た考えの共通の視点から決めるように助言する。 ・ 司会者に座席表を渡し, 意図的指名や質問をしながら, 話し合いが進められるようにする。 ・ 様々な工夫を取り入れることで, 1年生に対する思いやりをもって触れ合い, 仲よくなれるような内容を考えるように促す。 <p>◇【思考・判断・実践】(学級会ノート)</p>	板書計画
終 末 5 分	8 先生から	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの成就感をもたせるために, 話し合いにおける態度・発言・計画委員の働きなどについて賞賛する。 	
	9 話し合いの振り返り	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>〈「未来」とのつながり〉 「自己の変容」「友達」「未来」という観点を与え, 観点に基づいて振り返った内容を交流する場面において, お互いの考えを価値付ける。 ↓ 自分や友達のよさ, 自分が成長したことに気付くことで, 自信をもてるようにするとともに, 実践への見通しをもつことができるようにする。</p> </div>	学級会 ノート
	10 終わりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画委員の合図で話し合いを閉会する。 	